

開講日	2013年秋期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A・病院3階 大ホール
コーディネーター	名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹 / 名古屋市中央療育センター 医師 宮地泰士		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】 発達障害に対する理解、指導法の習得、事例研究、などが進み、勉強熱心な関係者が多い。最近では教育現場の教員や療育にたずさわる関係者の中には、発達障害の医学的知識を知りたい、薬の作用メカニズムを知りたい、脳の仕組みを知りたい、などの声も多くなってきた。本講座では、ADHDを中心に発達障害の医学／生物学的な知識を実験結果からの裏打ちから深め、今後の発達障害児の教育／療育の幅を広げられることを目指す。 【期待される成果】 運動や行動の脳のしくみ、ADHDの診断から病気の医学的理解、環境要因の生物学的影響などについて学び、受講後のさらなる自己勉強がよりスムーズとなるとともに、実際の教育／療育現場での対応法の応用を考える手助けとなる。		
目標とする 資格			

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講義室	講師(所属)
脳の発達と働きを知る	1	神経の基礎を学ぶ：神経系の発達と動物的機能	脳は神経、神経膠細胞、希突起膠細胞から構成される。胎児期に基本が作られ、20歳頃までゆっくり成長している。神経系の発達と動物としての神経系の基本的な働きを学びます。	9月4日	講義室A	教授 飛田秀樹 名古屋市立大学医学研究科 脳神経生理学
	2	運動/行動のメカニズムを学ぶ	周囲の感覚情報を記憶に照らし、状況を認知・判断し、体を動かし、最適な行動をとることが動物的機能です。生後に発達するこの働きの中の、運動/行動の仕組みを学びます。	9月11日	講義室A	教授 飛田秀樹 名古屋市立大学医学研究科 脳神経生理学
	3	情動の発達：ドパミン神経系から"ほめる"や"怒り"を知る	最適な行動を取るためには、情動がしっかり発達する必要があります。情動とドパミン神経系について学び、"ほめる"ことの生物学的な意義、"怒り"について知ります。	9月18日	名市大病院 3階大ホール	教授 飛田秀樹 名古屋市立大学医学研究科 脳神経生理学
	4	遺伝？それとも環境が大事？	ADHD関連遺伝子が分かってきました。一方、環境により行動や遺伝子発現が大きく変化することが証明されました。実験データを交え、教育(環境要因)の重要性を学びます。	9月25日	講義室A	教授 飛田秀樹 名古屋市立大学医学研究科 脳神経生理学
ADHDの発見から診断へ	5	ADHDの見極め：自閉症など他の原因との違い	不注意、多動、衝動性はADHDに限らず他の発達障害や精神障害などが原因でも認められる行動特徴です。それぞれの違いや鑑別診断についてを学びます。	10月2日	講義室A	医師 水野賀史 名古屋市立西部医療センター 小児科
	6	発達検査の解釈とその応用	今回は学齢児によく行われる発達検査の1つであるWISC-IIIを中心に、発達検査の結果をどのように解釈し、実際の指導に活かすのかを学びます。	10月9日	講義室A	医師 宮地泰士 名古屋市中央療育センター 小児科
	7	ほめて育てる：実践／実習編	"子どもをほめて育てる"ということが大切だと思っいてなかなか実践できないと悩む親や指導者は多いです。実習を通してそのコツやポイントを学びます。	10月16日	講義室A	医師 宮地泰士 名古屋市中央療育センター 小児科
ADHDの病気を 知る	8	ADHD薬を知る：薬の効き方から副作用まで	ADHD治療で用いられる薬が、どのように作用するのかについて学びます。さらに、その副作用についての理解を深め、適切な服薬へのアドバイスを可能にすることが目標です。	10月23日	講義室A	医師 永井幸代 名古屋第二赤十字病院 小児科
	9	ADHDの診断と治療効果を画像で知る	ADHDへの薬物療法が国内でも始まり、その治療効果を画像検査で評価することが可能となりました。長期的な厳格体罰の脳への影響についても学びます。	10月30日	名市大病院 3階大ホール	教授 友田明美(特別演者) 福井大学 子どものこころの発達研究センター
	10	自閉症についても知る：画像によるADHDとの対比から	自閉症の中核症状である対人相互作用やコミュニケーションの障害の脳病態が、MRIなどの脳画像を用いた研究により分かってつづつあります。ADHDでの不注意や衝動性の障害の脳病態と対比して学びます。	11月6日	講義室A	准教授 山末英典(特別演者) 東京大学 精神医学
	11	大人のADHDを知る	ADHDは発育期の子供だけの問題ではありません。最近では、大人のADHDも注目されています。ライフステージ毎の発達と療育も意識してみましよう。	11月13日	講義室A	病院講師 山田敦朗 名古屋市立大学医学研究科 精神・認知・行動医学
教育／療育の 実践へ	12	トータル環境を考える：保護者との連携	ADHD児の治療には対応の方法などの環境調整が不可欠です。学校と家庭で子どもへの一貫した関わり方が可能になるためには、どのような連携が必要なのか考えます。	11月20日	講義室A	医師 浅井朋子 名古屋市発達障害者支援センター
	13	社会的スキルトレーニング：理論と実践	ソーシャルスキルトレーニングの考え方とそれが子どもにとって何故必要なのかについて学びます。	11月27日	講義室A	教授 滝村雅人 名古屋市立大学 人間文化研究科
	14	社会の取り組み：Next ステージへ向けた課題を知る	「アスペルエルデの会」の活動を知り、より良い将来の療育に向けた社会の取り組みが抱える問題点等を知り、その解決と克服へと繋げていきましょう。	12月4日	講義室A	事務局 田中尚樹 NPO法人アスペルエルデの会
	15	新たな教育／療育を考える：まとめとディスカッション	本講座のまとめを、ディスカッション形式で行います。生物学的な理解を深めたのち、どのように教育／療育に繋げることができるのでしょうか？	12月11日	講義室A	教授 飛田秀樹 名古屋市立大学・医学研究科 脳神経生理学